

かわら版 NO.5

多度地区小中一貫校多機能複合化事業 第1回ワークショップを開催しました

桑名市では、多度地区小中一貫校多機能複合化事業の基本構想・基本計画を、多度地区の皆さんと一緒に対話をしながら創り上げるため、この度、ワークショップを行いました。

当日は、保護者の方や地域の方など多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

□日時・参加人数

令和元年5月29日(水) 18:30～20:30 (28人)

令和元年6月2日(日) 10:00～12:00 (27人)

□場所

多度まちづくり拠点施設

□テーマ

「建設候補地について」

□当日の流れ

1. オリエンテーション
2. 情報提供
3. グループワーク・全体共有
4. ふりかえりシートの記入

1 オリエンテーション



ワークショップは、意見の優劣を決める「議論」ではなく、市も含めた参加者全員でテーマについて考えを出し合い、考えを聴き合う「対話」を行うことを目的としています。

2 情報提供

基本構想・
基本計画(素案)
について

桑名市では、2020年度より子どもたちの「学び」と「育ち」を9年間つないでいく小中一貫教育が始まります。また、多度地区では、小・中学生の交流や教職員の協働が日常的にできる施設一体型小中一貫校の設置を計画しています。あわせて、多度地区のまちづくりの観点から、小中一貫校を多機能複合化することで「子ども」も「地域」も学び、交流できる場の整備も目指しています。

3 グループワーク 全体共有

両日とも4グループに分かれてグループワークを行い、全体で共有を行いました。
※グループワークの概要は裏面に掲載してあります。



4 ふりかえり シートより (一部抜粋)

- ・どの方も子ども中心の考えを述べられていたことが印象に残った。
- ・行政の方には本日の内容を受けてより具体的なプランを出していただくよう期待したい。
- ・ワークショップというよりもどうしても自分の意見を主張する議論になってしまいがちだった。もっと前向きで建設的なワークができるといいなと思います。
- ・住民は何も望んでいない。小中一貫校より小学校の再編・統合を望んでいると思います。
- ・多度のまちが好きなので子どもにとっても大人にとっても良いまちづくりを期待しています。小中一貫校は子どもにとって必要だと思えます。
- ・「小学校のみの統合」という可能性があるのか。ないのであればそこはハッキリと伝えていかないと進まないと思います。
- ・これから関係してくる保護者たちの参加が不可欠だと思う。各学校でのこういう話し合いが必要だと思う。

次回の予定

現在、各小学校の保護者の方から懇話会の開催依頼をいただいています。こうした声にお応えし、多くの方のご意見をワークショップやこの事業に反映していきたいと思えます。次回のワークショップは準備ができ次第、ご案内します。

■ 5月29日



Aグループ

この事業に対する地域の理解をさらに進める必要がある。建設場所は、子どもが窮屈を感じない広さがあること、登下校では通学路が安全で地域の方の見守りが多い中心地、浸水区域外であり断層の上ではないこと。複合化施設は、防犯面や、落ち着いた学校生活の点で不安であり、必要なのか。桑名市の財政状況に合った計画として欲しい。すべては、「未来ある子どものために」という視点で検討していきたい。

Bグループ

防災面で水害にあわない高台、防犯面で地域の人目が届きやすい住宅地の近く、通学面で安全に自転車で通えて多くの子が短い通学路で通える場所が良い。まちづくりの面でも地域とのつながりが大切で、町から離れていない場所が良い。必要面積を確保し、参観や複合化で駐車に困らないようにしてほしい。先生と子どもの関わりの面から考えると、4～5年後に小中一貫校とするには生徒児童数が多いのではないかと。



Cグループ

学校敷地は、まとまった土地で十分な広さの確保が重要であり、市が提案した4案以外にも候補となる場所がある。また、場所の検討は、防災面や子どもの通学面等、子どもの安全を第一に考えるべきで、スクールバスの運行は有効な手立てである。複合施設は、無理に学校内に設ける必要はない。そもそも、土地の買収や建築、スクールバスの運行等、費用は十分確保できるのか。併せて小中一貫校の設置を見直すべき。

Dグループ

安全・安心に過ごせる場所、施設が良いので、複合化することによりセキュリティ面が不安であり、防犯面を整理する必要がある。通学の安全性や水害、活断層などの危険のない場所が望ましい。敷地は1か所でまとまった広い土地が良く、グラウンドと校舎が離れた場所は反対。建設するなら施設一体型でなく施設分離型が良い。現状の候補地で実現できないなら、小学校の再編を行い、施設分離型で考えるべき。



■ 6月2日



Aグループ

通学路の安全・不審者対策がされ通学しやすく、災害にあわない場所が良い。施設安全面から複合化は反対。用地は、駐車数や1ヶ所での必要面積が確保できる場所が良く、拡張可能な新たな場所や青葉小も検討してもいいのではないかと。また、中小を活用した小学校統合も検討してみてもどうか。事業ありきではなく多度町民が望んでいるものから出発してほしい。児童減少、複式解消はできるだけ早く解決してほしい。

Bグループ

学校という施設を考えると、犯罪や事故のない場所で、教師だけでなく地域の人目も届くような場所が良い。また、防災面でも災害時に安心していただける場所でないといけない。敷地は、小学校・中学校のゾーン分けができる広さが必要だが、子どもの通学の負担が少ない場所であることも重要。財政面による現実と理想のギャップが生じる等の懸念からも、リアルな情報の発信をしてほしい。



Cグループ（一貫校の条件を外し、学校を建てるとしたらの条件）

多度の豊かな自然を活かした学校づくりを。学校は、子ども達の教育の場だけでなく、防災の役割も果たしている。災害に強くかつ避難がしやすい「まちの中心部」への設置が望まれる。学校は、子どもが安全・安心に過ごすことができるよう、十分な敷地面積の確保が必要。複合化は不要で、閉校した学校の校舎を使用し集約化すればよい。まだまだ、住民の理解は得られておらず、小学校の統合が現実的である。

Dグループ

ふさわしい用地の条件は、第一に広い敷地が確保できること。グラウンド、プール、その他の設備も小と中で別々に配置できる広さが必要。また、全ての設備がまとまっていることが必要。安全・安心に関して、防災面で高台であること、地盤がしっかりしていること。防犯面で通学路が安全であること、複合施設は安全管理が難しくなるため不要ではないか。現状の候補地は、どれも実現可能とは思えない。

